
キンシン

雑兵

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

キンシ

【Zコード】

Z6914Z

【作者名】

雑兵

【あらすじ】

起きたら知らない服装、知らない部屋。おまけに見知らぬ幼女に「お父さん」と呼ばれ。

あ～あ、よく寝た。

あれ、いつ着換えたつけ?
てか、ここどこ?

「やつたー！大成功だね！
え？何、この子？」

「誰？」

「君の名前は、篠ノ芽優馬くしのめゆうま^だ！
白衣のポケットから手を出した眼鏡の幼女が、ビシツと指差して
くる。

「そんな事知ってるよ」

「あれ？記憶喪失ネタじゃないの？」

「君は誰なのか、訊いてるんだ」

「ああ、そっち。あたしは篠ノ芽舞くしのめまい^。貴方の娘よ
！」

また、ビシツと指差してくる。

「へ？」

「ちょっと。お父さんの方から振ってきたんだから、もつと大袈
裟にリアクションしてよ~」

「待つた待つた！俺に子どもがいるわけ無いだろ。まだ、18だぞ
！？」

「それは身体だけでしょう。も～、あたしののネタ飽きた～。早く、
婚姻届出しに行こうよ」

「誰と誰の？」

「あたしとお父さんでしょ～」

「はあ？何、訳分かんない事言つてるんだよ」

「お父さんの方こそ、さつきから変だよ？まさか、本当に記憶喪失

とか言つんぢやないでしょ～ね

「もう何が何だか……」

「ね、ねえ？！今までの、全部冗談だよね！？ほんとに記憶まで若返つたなんて事ないよね！？あたしの事、忘れちやつたなんて事、ないよねつ！～？」

「いや、ホントに君の事もこの部屋の事も知らないし」

「そんな……、そんなあああ～わあああああん！～」

「じつちが泣きたい。

「じゃあ、説明するね……」

「うん」

「お父さんは、若返り薬の研究をしてたの。それがついに完成して、自分に使つたの。そしたら……」

「記憶まで、昔に戻つてしまつた。と」

「そうみたい……。お父さんの記憶だと、わざわざ何してたの？」

「寝て、起きたら、じつなつてた」

「そう……。動物実験じや、記憶なんて確かめられないよ……」

「あの、婚姻届つて、どうこう事？」

「薬が完成したら、結婚しようって約束してたの……」

「でも、俺達親子なんだよね？」

「そつか。一八の頃じや、まだ知らないんだ。少子化対策の一環で、近親婚が認められる様になつたの。流石に一世続けては危険だから、あたし達の子どもは近親婚出来ないけど」

「とにかくで、舞ちゃんはいくつ？」

「一〇歳だよ。でも、大丈夫。結婚の年齢制限に特例ができるの。高校卒業レベルの知能を証明出来ればOKって。あたしは、飛び級で高校卒業したから、結婚出来るの」

凄い事になつてんなあ、未来。

「記憶を戻す方法とかないの？」

「無い……よ。記憶まで若返る事態は想定してなかつたし、若返りでもまた年は取つてくから元の年齢に戻す薬も考えてないし」

「ううか……、どうすつかなあ。

「ヒーリングだ、今のお父さんから見て、あたしひビツア?..」

「可愛じよ」

「じゃあ、結婚してくれる?」

「うえ！？いやあ、まだ会つたばかりだし……」

「解つてるよ。まあ、記憶の方はあたしに任せと、とりあえずこの時代に慣れ……」

「こんなにちはー」

女人人が入つて來た。

「あれ？舞ちゃん、この人誰？なんか見覚えがあるんだけど……」

「……お父さんだよ」

「あー…じゃあ、若返り薬完成したんだ！」

「舞ちゃん、こちらの美人さん、誰？」

「むつ。まあ、いいか。お父さんの妹の結くゆいへ叔母ちゃんだよ。当時5歳だったから、知つてるでしょ？」

ほ~。小っちゃかつた結が、こんなに大きくなつたのか。背とか胸とか。

「結。いくつになつたんだ？」

「何それ！？私の歳忘れたつていつのー？ハタチよー。俺より年上だ。

「叔母ちゃん。実は……」

「そんなん、お兄ちゃん……」

「ごめんな、結」

「別に謝る事じゃないけど……、お兄ちゃん、私と結婚しよー。」

「は？」

「ちょっと……ちょっとちよっとちよっとー。今更何言ひのよ。叔母ちゃんは、お父さんにはつきり振られたでしょー。」

「何、その話」

「そんなのチャラよ、チャラ。記憶を失くしたんだから、また振り出しでしょ。18と20なら歳も近いし。それに舞ちゃんの事は知らなくとも、私の事は覚えてるもんね~」

「覚えてるつたつて、5歳の頃までなんだけど……」

あの頃とは、大分違うだろ。主に大きさが。

「ふつ。覚えてるつて事は、妹としか思われないつて事よ。その点、あたしは娘という実感が無いから有利なのよー。」

なんで煽るの。

「お父さんー！」

「お兄ちゃんー！」

「『ひひか』結婚するのーー。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6914n/>

キンシン

2011年7月4日07時30分発行